

■ 日比翁助 ひびおうすけ 桜田門外変 ・1860＝	企業家。 日本初の百貨店{三越}を創業して経営改革を進め、人々の消費行動を根本的に変革した。 筑後国久留米櫛原街の屋敷で、奥詰役藩士竹井安太郎の次男に生まれる。母はとき。
明治維新 ・・1868＝ 8歳 戊辰戦争終・1869＝ 9歳	剣術を父方の伯父で藩主指南役の津田教安について学ぶ一方、竹崎氏に漢学を学び、母方の伯父の藩の絵師から絵も学んでいる。藩の開明派の執政不破美作も母方の伯父で、文明開化の波も一身浴びて育つうち、維新前夜、伯父の不破美作が攘夷派に襲われ、首を持ち去られる事件に衝撃を受けたばかりか、藩論は一気に攘夷に転換。藩校にも通えず、父や兄の教えを受けながら、家伝の剣術に励む。 維新後もなお攘夷派が支配、新政府への反乱を企てるも失敗、鎮圧された。
学問のすすめ1872＝12歳 明治6年政変 1873＝13歳	新政府の武術廃止に抗議して、伯父の津田教安が自刃し、再び衝撃を受ける
西南戦争・・1877＝17歳 大久保暗殺・1878＝ 18歳	維新によって身分を失い、子どもの行く末のため、新知識こそ必要と考えた父の意向もあって、 著名な江崎済の{黒木塾}に入門、のちに一家を成す石橋忍月、牛島謹爾らと生涯の友になる。 修了後、小学校教師となり、福沢諭吉の著作を読んで傾倒、慶應義塾への進学を考えるうち、
明治14年政変 1881＝21歳 新体詩抄・・1882＝22歳	旧久留米藩士日比家の末亡人から娘の婿にと求められ、固辞するも、慶應義塾進学を支援すると言われ、養嗣子になることを承諾、上京して慶應義塾に入る。同郷の高橋義雄(箒庵)も同期入塾。経済学や英語を学ぶとともに、生涯の師や友を得、諭吉からは “士魂商才” を叩きこまれる。病父を見舞うべく帰郷し、日比家の娘春野と結婚、直後に父は死去。
秩父事件・・1884＝24歳 帝国大学始・1886＝26歳 国民之友始・1887＝ 27歳 初の対等条約1888＝28歳 帝国憲法発布 1889＝29歳 帝国議会始・1890＝30歳	卒業して帰郷。長男が誕生するも、職はなく浪人暮らしするうち、覚悟を決め、家財一切を処分し、妻・長男・義母を連れて上京。海軍天文台に就職し、黒田清隆の貸家に住む。 この年、何かと面倒みてきた牛島謹爾がアメリカに旅立つ。長女が誕生。 この間、慶應義塾幼稚舎にも勤務し、大学基金募集などを通じて、誠実さと敏腕ぶりが評判となり、牛島はどん底状態になるが、以後、ジャガイモ生産が成功、ポテト王となって行くが、その間、牛島のもとへ渡る久留米の農民たちの面倒も見続ける。次男が誕生。 不況で苦しむモリスン商会の堀越角次郎から相談された諭吉の推挙で、支配人となるや、ビジネスの才が開花、たちまち信頼と尊敬を得るようになる。
郡司千島探検1893＝33歳 日清戦争始 ・1894＝34歳 日清戦争終 ・1895＝35歳 白馬会・・・1896＝ 36歳	自転車が道楽で、通勤だけでなく、仲間とサイクリングを楽しみ、最も早い同好会{日本輪友会}が発足。 後ろ盾だった堀越が死去したため、退職し、再び浪人生活送るうち、 *諭吉の紹介で中上川彦次郎と会って気に入られ、{三井銀行}に入社。乱脈極めていた和歌山支店長となるや一気に収めてまたも評判になる。
八幡製鉄始・1897＝37歳 子規句歌革新1898＝38歳	東京に呼び戻され、本店副支配人に出世。 *{三井呉服店}改革のために送り込まれていた高橋義雄から要望で、武家出身者が最も嫌う商人への転換に戸惑うも、中上川から説得され、ついに{三井呉服店}副支配人となるや、瞬く間に人心を掌握。閉塞感を打破すべく拡大戦略を打ち出し、福井とともに開設した横浜出張所は業績が鰻登りとなる。
Bushidou・・1899＝39歳 ビヲ国産化・1900＝40歳	宣伝広告を重視して画期的な案内書{花ごろも}、続いて{夏衣}を発行、通販も開始、 “新柄陳列会” 、初の商談会、全館を陳列売場とするなどして絶賛される一方で、女子店員を初めて採用し、東宮の結婚を祝して、飛鳥山で第1回の親睦会を開催したのを始め、社員の士気向上も図る。
田中正造直訴1901＝41歳 教科書疑獄・1902＝42歳 日比谷公園・1903＝43歳 日露戦争始 ・1904＝44歳	三井鉱山の理事も兼任するようになった高橋義雄に代って、経営の第一線で陣頭指揮をとるようになり、西洋人向けの販売も開始、フランスからの輸入自動車による商品配達で話題を独占。PR誌月刊{時好}、季刊{みやこぶり}を発刊。 *完全に独立経営できるようになって、三井家から分離、益田孝を代表発起人に株式会社{三越呉服店}が設立され、実質的な社長に就任。公衆の利益を最優先する経営理念“デパートメントストア宣言”を新聞一面広告、市民の度肝を抜き、さらに商標も改めて、新生{三越}が誕生。巖谷小波・新渡戸稲造・黒田清輝・森鷗外ら著名文化人による流行研究会{流行会}を組織。初の文化事業として{光琳展覧会}を開催。
日露戦争終 ・1905＝ 45歳 満鉄発足・・1906＝46歳	(時事新報)に「三越デパート化構想」を発表。高橋の仕掛けによる“元禄模様”が大ヒット、ブームとなる。 英国王代理の国賓を迎えるなど、東京を代表するブランド店となるも、なお、向上心を発揮、 “欧米を視察し、ロンドンのハロッズ百貨店を訪ねて、社長パービッジから暖かく迎えられ、コンセプトから経営ノウハウまで惜しみなく伝授されて感銘、以後、模範とする。
アヲキ創刊・1908＝48歳	{子ども寄宿舎}を建設し{小僧読本}を一新。 日本橋通りの拡張を逆手に、ルネサンス様式の荘厳かつ巨大な仮店舗を建設し、早くも、’一か所で買い物すべてを調える機能’を実現させる。
伊藤博文暗殺 1909＝49歳	第1回児童博覧会を開催を皮切りに、 様々な催事を行い、{三越少年音楽隊}を創設するなど、デパートのビジネスモデルを構築、
韓国併合・・1910＝50歳	退職金手当金を利益から支出することを定めるなど、従業員の幸福にも気を配り続け、心血注いで計画してきた新本店の着工にも漕ぎつけたが、
大逆事件判決1911＝51歳 明治天皇没 ・1912＝52歳 大正政変・・1913＝53歳 第一次大戦始 1914＝ 54歳	*ハロッズの社長から忠告されていた燃え尽き症候群に陥ったのか、神経衰弱の症状が出始め、悪化、年賀式にも出れず、 病床に臥せる身となり、実務を退いて、会長に就任。 ルネサンス様式の新店舗が竣工、一等に当選した橋口五葉のポスターが大評判になるとともに、“今日は帝劇、明日は三越”というキャッチフレーズが大ヒット。
本格政党内閣1918＝58歳 原敬首相暗殺 1921＝61歳 関東大震災 ・1923＝ 63歳	取締役も退任。この間、雑誌{商業界}に紹介された際、初めて“百貨店”の訳語が登場している。 箱根の別荘で療養中、大地震。本店の客は全員無事で、建物も安泰だったが、延焼で内部は焼失。
満州事変 ・・1931＝71歳	“闘病の末、” 没した。